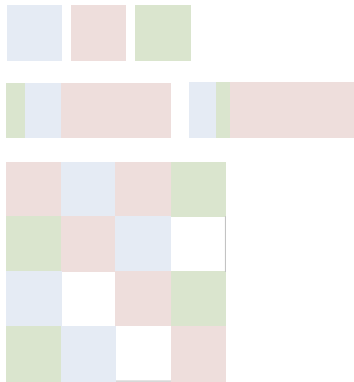


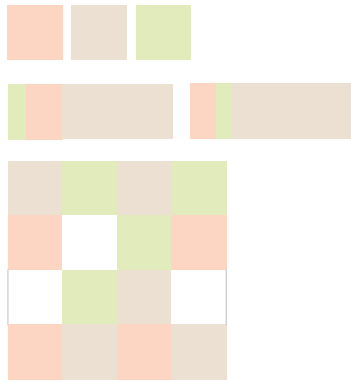
**1** 綿毛／わたげ  
5RP 8.5/0.5 Vp-1 tone  
うすい赤/パールピンク

ほとんど白に近いピンクは優しさと柔らかさを現し、ソフトな手触り感や品質感を高める効果がある。あくまでもマット仕上げが基本であるが、ほんの少しだけ光沢を与えたり、水滴がついたりするもっとも輝きを放つ色の一つである。白や明るいグレーとのコンビネーションでさらにソフト感や上品さを強調できる。



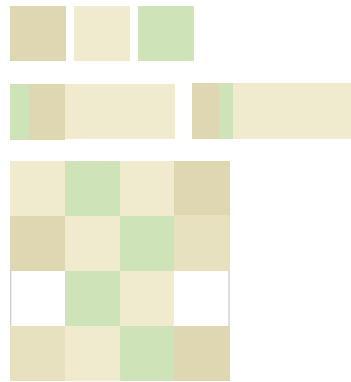
**2** 百合が原／ゆりがはら  
5YR 8.5/0.5 Vp-1 tone  
うすい橙/パールクリーム

少し厚みや凹凸が加わることで見え方が変わる特徴を持っている。色味のあるアイボリーであり、全面的な使い方次第ではかなり落ち着いた印象を与える。少し汚れてくると味わいが出てくる色でもある。生成りにも近く、素材や生地の良さ、無垢材の持ち味を活かす色として使われる。



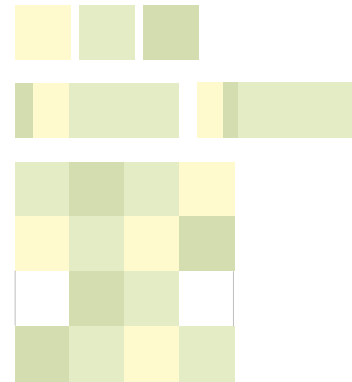
**3** 白樺／しらかば  
7.5Y 8.5/1.0 Vp-1 tone  
うすい黄/パールクリーム

ノーブルなアイボリーであり、すっきりした印象を与える色である。大面積に使うよりも大きく分割をして配色として使う方が効果的である。木部とのマッチングもしやすく、土色や煉瓦などとのバランスも取りやすい。ナチュラルイメージに仕上げるには、外せない大切な色である。



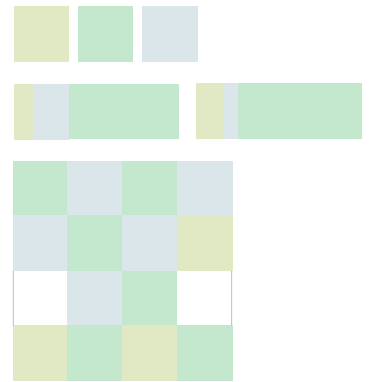
**4** 露の臺／ふきのとう  
5GY 8.5/1.5 Lgr-1 tone  
うすい黄緑/ライトグレイッシュイエローグリーン

落ち着いた上品さと素材の持ち味を大切に表現してくれる色である。夕暮れ時の光で一層陰影がついて深みが増すと美しく感じられるトーンであり、形やディテールの表現にデリケートな対応ができる。



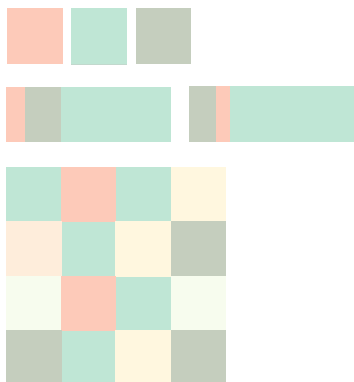
**5** 氷雨／ひさめ  
7.5G 8.0/2.0 Lgr-1 tone  
うすい緑/ライトグレイッシュグリーン

微妙すぎてかえって使いにくいかもしれない。スッキリとしたしなやかな構造体としての緊張感も表現しやすい色である。軽くて薄い材料の質感を的確に選ぶことが求められる。決して簡単に安い材料では仕上げない方がベターである。都会的な洗練さを上手く表現できる色として有効である。



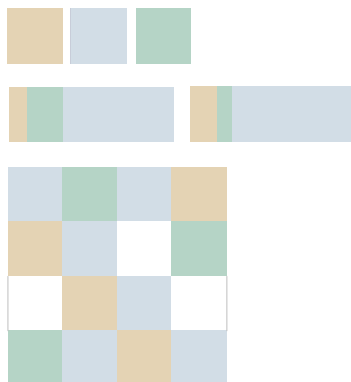
**6** 雪まつり／ゆきまつり  
5BG 8.0/2.0 Lgr-1 tone  
うすい青緑/ライトグレイッシュブルーグリーン

この色の青みは使いやすく、配色もしやすいが取り込む色によってはバランスを崩すことにもつながる。塗装でもタイルでも人工的な素材とのコンビネーションで一層すっきりとした印象に仕上がる。北国ならではの色味であり、寒色系の大面積カラーとして使いやすい。



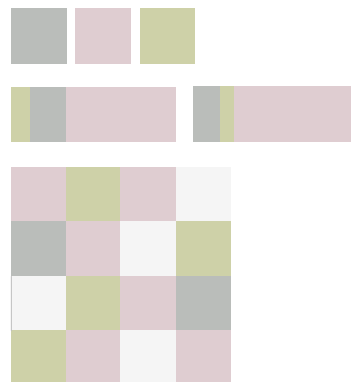
**7** 雪虫／ゆきむし  
6PB 8.5/2.0 Lgr-1 tone  
うすい青/ライトグレイッシュブルー

北国の光や季節感に対応した色のトーンであり、一瞬は暗く感じるがオールシーズンで考えるならば穏やかで落ち着いたイメージになる。仕上げ素材の耐久性や汚れ具合を想定して使い続けるとかなり風土を意識した使い方につながる。



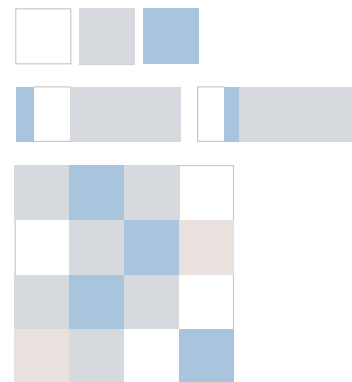
**8** リラ霞／りらかすみ  
5RP 8.0/1.5 Lgr-1 tone  
うすい紫/ライトグレイッシュパープル

かなり赤み、紫みを感じる色であるが大面積になるともう少し白っぽくなる。これも夕暮れや夜間照明では昼間と違った色に映る可能性がある。構造物の形状によっては、色味自体がデリケートで、ソフトイメージのために、似合う似合わないがはっきりしてくる。特にこの色は優しさと上品さを感じさせてくれる。



**9** 凍白／とうはく  
10B 8.0/1.5 Vp-1 tone  
うすい灰青/パールブルーグレー

大面積には使いにくいですが、部分的には大胆な使用が考えられる。夏の爽やかさもあがるが雪とのマッチングも美しく、真夏の濃い緑ともバランスが取りやすい特徴も持っている。中高層部で縦長のアクセントゾーンに使える色である。



**10** 霧氷／むひょう  
PB N8.5  
うすい灰/ライトグレー

多くの外壁に使われているポピュラーな色であり、普通に見かけるコンクリートの色が代表しているライトグレーに、ほんの少しだけ青みが入るとすっきりして見える。少し色味を足したことで、時間的な経過に耐えられるようなイメージになり、全体のバランスも取りやすくなる。

